

REDD+プロジェクトによるパフォーマンス の国レベルでの評価

Evaluating the performance of REDD+ projects at the
national level

2020年1月21日

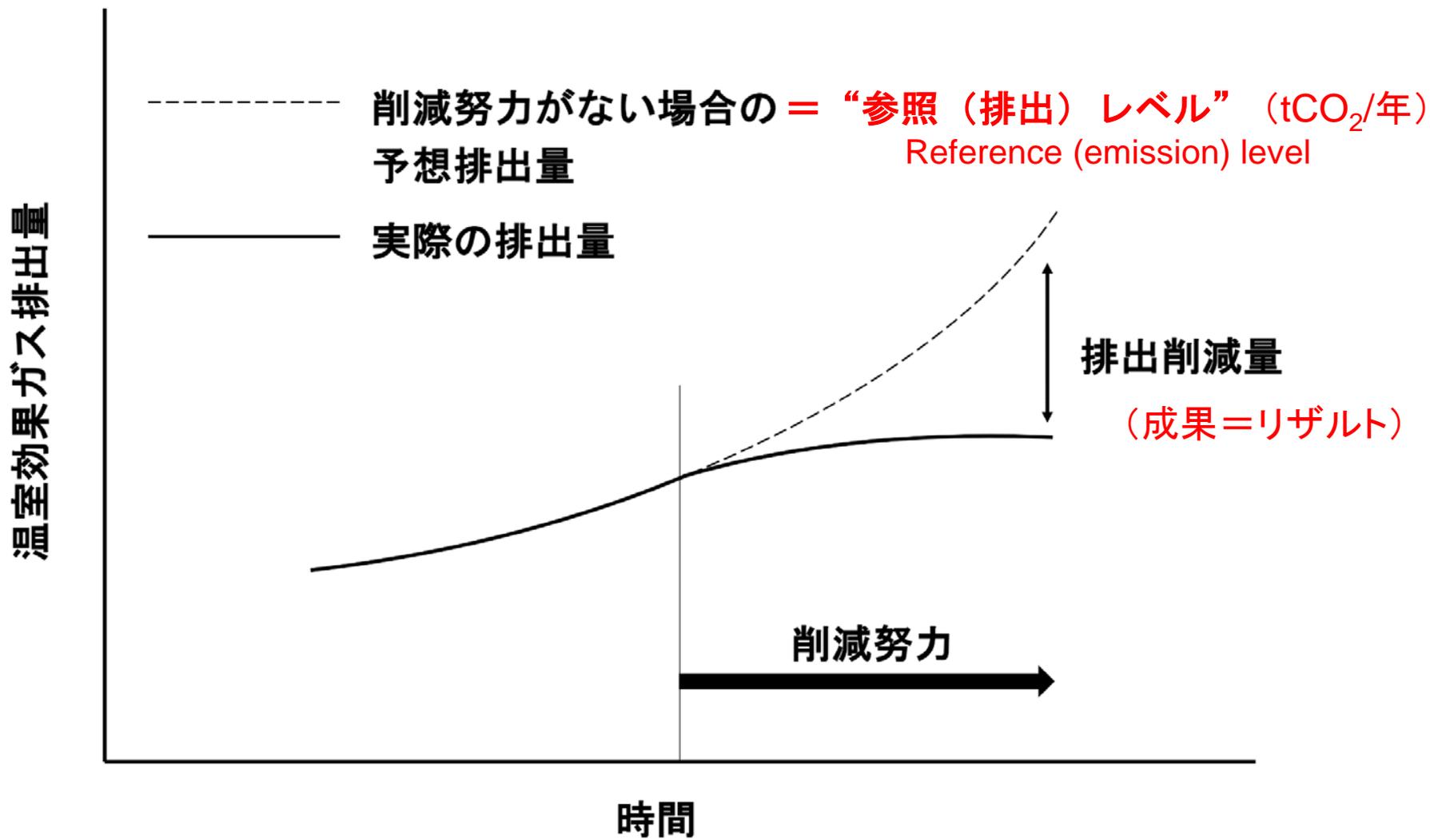
令和元年度国際セミナー「REDDプラス・始動元年2020
- 持続可能な開発のための国際移転可能な成果に向けて」

森林総合研究所 国際連携・気候変動研究拠点
江原誠

本日の内容

- パフォーマンス（≡排出削減量、排出削減の取組）の「適切な評価」とは
- 「適切な評価」を受けるための4要件
- 4要件を満たすための二つの提案
 - ① 国の参照レベルを下位のプロジェクトに配分する手法の開発
 - ② Cookbook Annex Vol.7「プロジェクト組成・実施・拡大手順 —排出削減努力が適切な評価を受けるために—」の発行
- まとめ

REDD+による排出量削減量の評価



出所：平田ら (2012) を元に作成

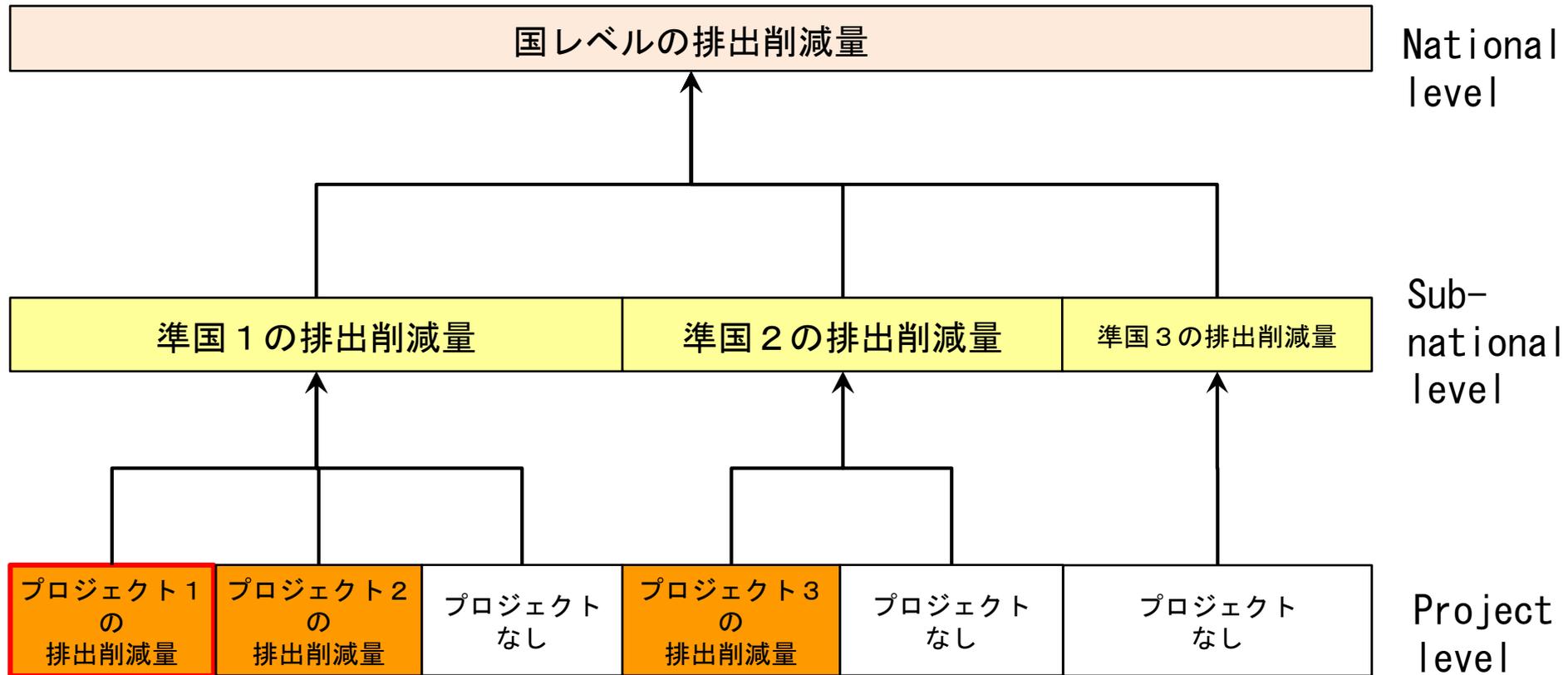
REDD+による排出削減の「適切な評価」とは

- 正確さと正当性が担保された評価
 - 排出削減量の正確な評価（二重計上の回避）
 - 排出削減量の正当な評価（貢献度の評価）

排出削減量の正確な評価（二重計上の回避）

- パリ協定は排出削減量の二重計上回避を明記（第4条13項、第6条2項）
- REDD+における二重計上：ある特定の期間及び地域において達成された排出削減を、民間事業者や国等の複数の主体が自身の努力として計上する、あるいは単一の主体が二重に計上すること

排出削減量の正確な評価（二重計上の回避）



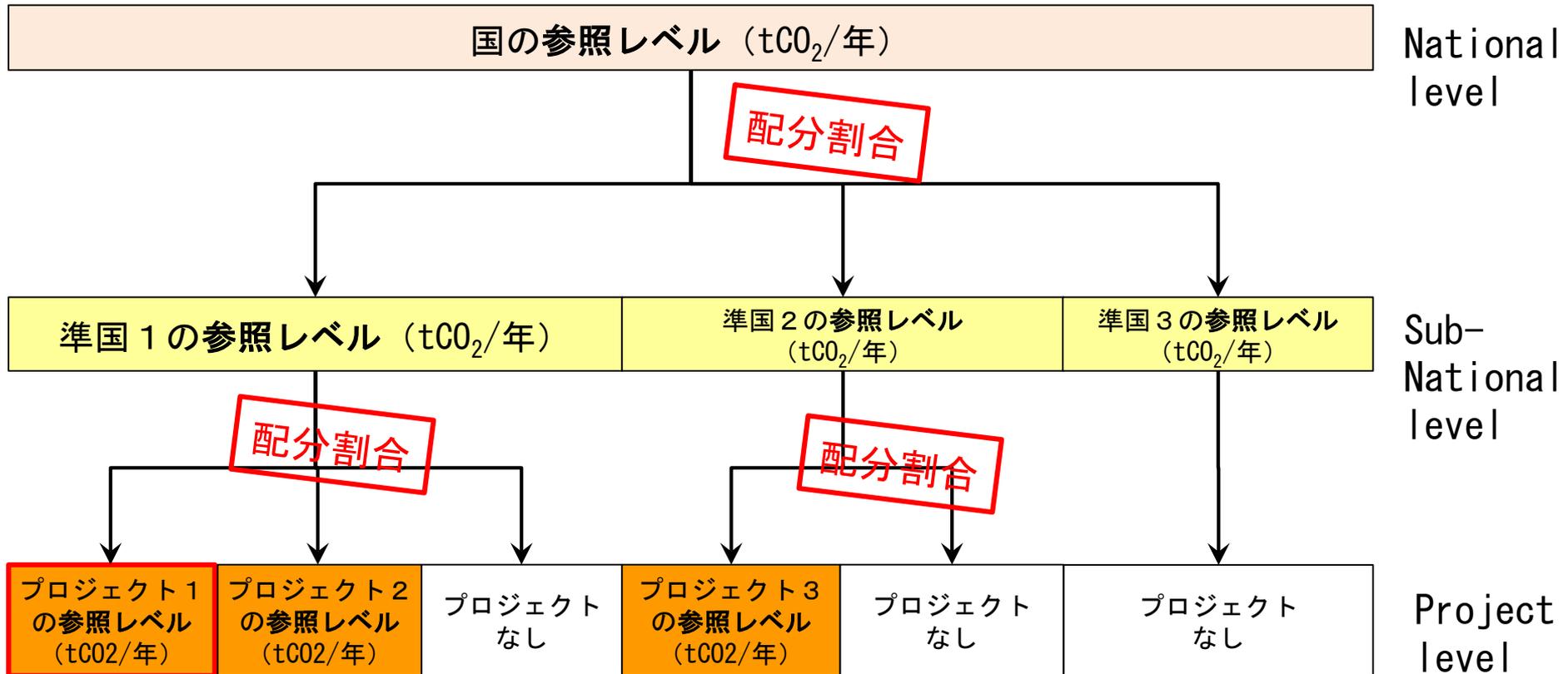
排出削減量の正当な評価（貢献度の評価）

- 上位プログラムと複数の下位プロジェクトが存在する場合、
 - 1) 共通の算定アプローチの採用により算定された排出削減量の評価の正当性
 - 2) プログラムの排出削減量へのプロジェクトの貢献度合いの評価の正当性

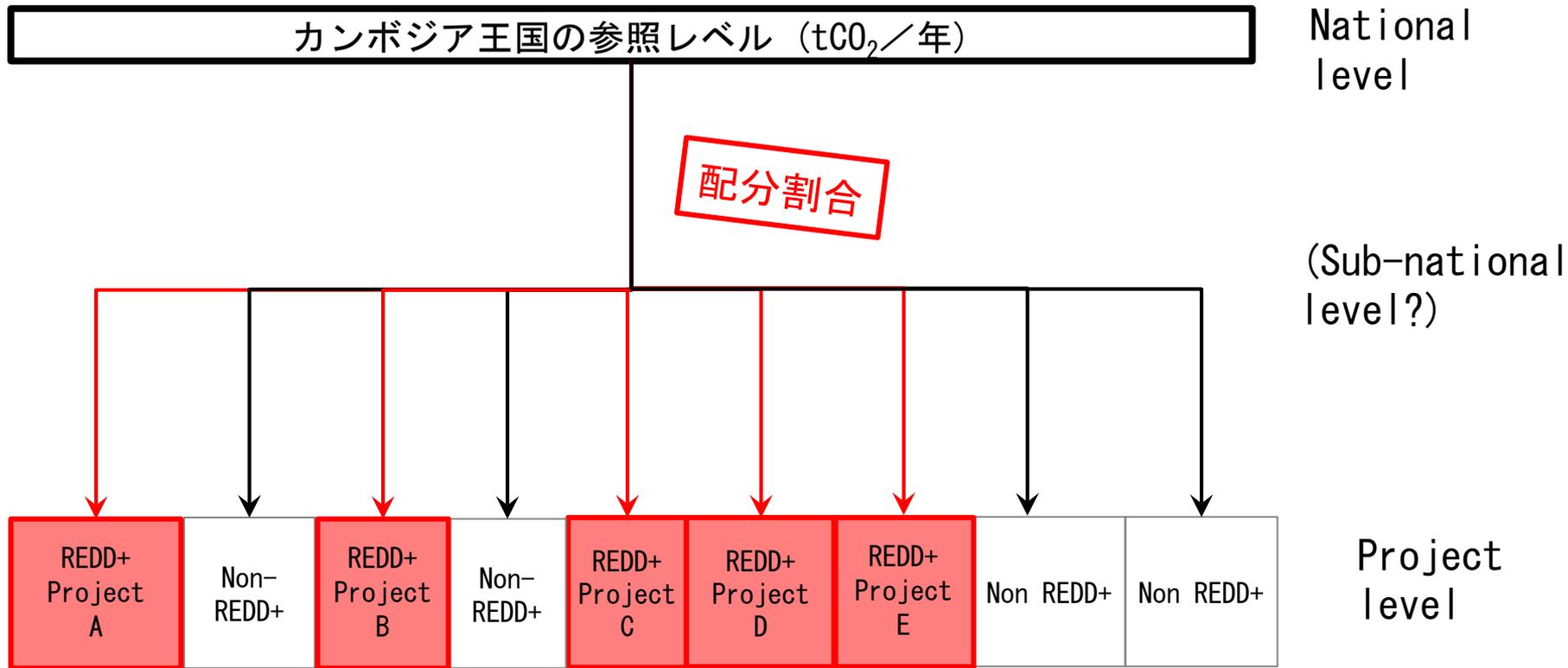
- 要件 1 : 方法論等に関する整合性確保
- 要件 2 : REDDプラス実施国政府に対する自身のREDDプラスプロジェクトの効果のインプット
- 要件 3 : プロジェクト間の正当な利益配分方法の整備
- 要件 4 : 人材の確保と連携

①国の参照レベルを
下位のプロジェクトに配分する手法
の開発

国の参照レベルの配分



カンボジア王国の参照レベルの配分



カンボジア王国の参照レベル配分手法案

- 国の参照レベルをプロジェクトへの配分する際の基本的考え方

$$FRL_{PJ} = FRL_{国} \times \frac{\text{数量}_{PJ}}{\text{数量}_{国}}$$

配分割合の決め方

- 国の参照レベルの配分手法案

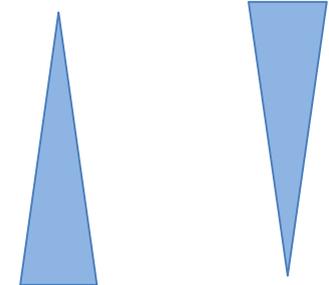
“Snapshot”
(一時点)

- 1) 現在の森林面積 に応じて配分
- 2) 現在の森林炭素量 に応じて配分

“Change”
(変化)

- 3) 過去の森林面積変化量に応じて配分
- 4) 過去の森林炭素変化量に応じて配分

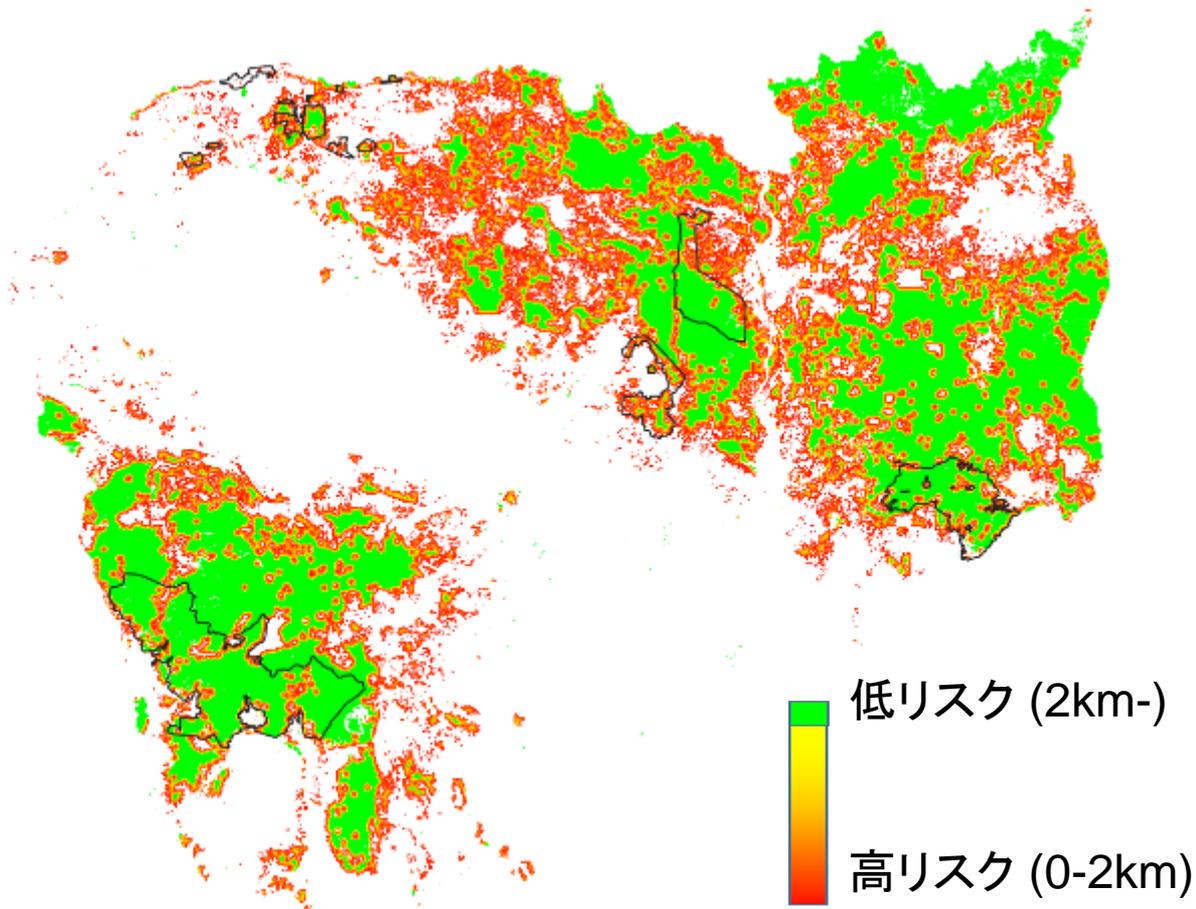
(I) 整合性 (II) 実行可能性



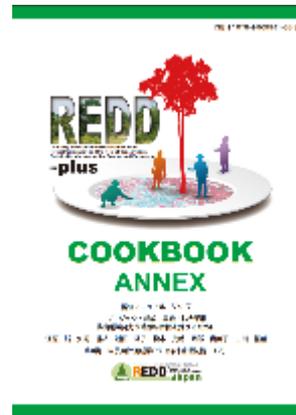
- 検討項目

- (I) 国の参照レベル設定時の考え方との**整合性**
- (II) **実行可能性**
- (+α) 直近の“森林減少リスク”の違い

森林減少リスクマップ (2014年時点)



② Cookbook Annex Vol.7
プロジェクト組成・実施・拡大手順
—排出削減努力が適切な評価を受けるために—

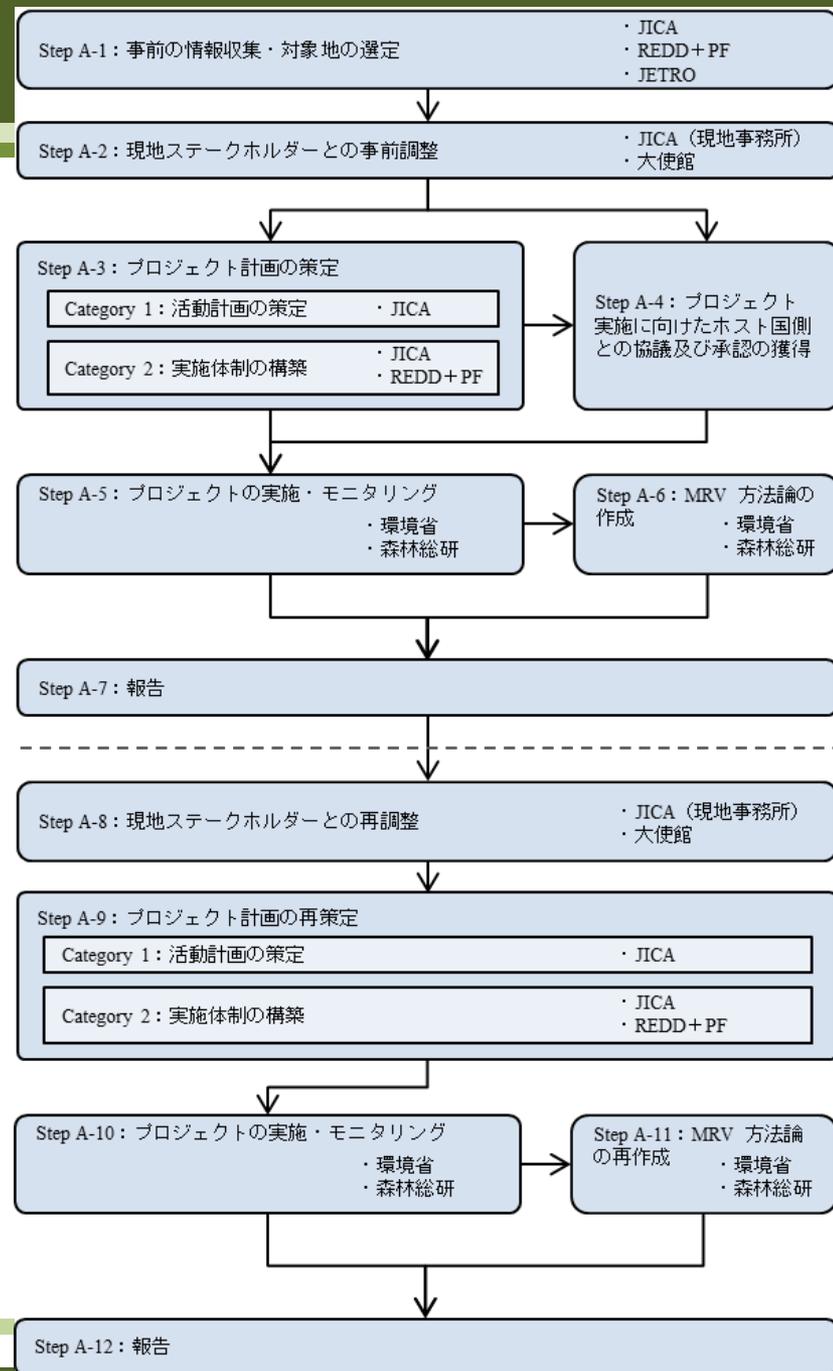


フローチャート

民間事業者のREDDプラス活動が国・準国レベルの下で適切な評価を受けられるようにするために、

3つのシナリオ毎に民間事業者がプロジェクト組成・実施・拡大時に取るべき手順を示したフローチャート

(図：シナリオAの場合)



チェックリスト

フローチャートのStep毎に、チェックする項目を整理したリスト

- 誰が、何を、どのように実施するべきか
- 実施にあたっての留意点は何か
- 必須項目、任意項目
- セーフガードチェックリストにも対応

Step A-1：事前の情報収集・対象地の選定

【趣旨・目的】

プロジェクトを長期にわたって安定的に実施でき、十分な排出削減量を、時宜を得た形で獲得できるように、相手国の関連政策・戦略・法規制、森林減少・劣化に係る課題と有効な対策、REDDプラス実施に向けた準備状況、排出削減ポテンシャル、その他リソースの入手可能性等に関する情報を事前に収集する。さらに、収集した情報に基づいて具体的な対象地を選定する。

※【Cookbook Annex Vol.8 プロジェクト設計手順】も活用し、情報収集・選定する。

【チェックを行うべき事業者タイプ】

現場レベルでの REDD プラス活動を具体的に計画・実施・支援する事業者

REDD プラス活動に資金を拠出する事業者

A-1-1 REDD プラスの実施に必要な資金と期待されるリターン（獲得可能なクレジット量等）、クレジットの需要動向等について分析を行いつつ、将来のプロジェクト対象地の拡大を念頭に、プロジェクト採算性について基礎的な検討を行っている。

- 既存の REDD プラスプロジェクトに投じられた資金や獲得クレジット量に関する情報を収集している。
- 炭素市場の動向について情報収集し、現在のクレジット価格や需要量、将来の見通しについて把握・分析している。
- 上記情報に基づき、REDD プラスに参加することによって自社が期待する収益レベルをクリアできると判断している。

A-1-2 REDD プラス実施国における REDD プラス関連の基本情報を文献調査レベルで把握している。

- REDD プラス実施国の公式文書を入手している（REDD プラス国家戦略、FCPF への提出文書等）。
- 上記文書に基づき、同国の REDD プラス主務官庁を特定している。
- 上記文書に基づき、同国の REDD プラス担当官の氏名、所属・役職、連絡先を特定している。
- REDD プラス実施国において過去に実施された準備活動の報告書を入手している、または同活動の関係者を特定している。
- 現地の JICA 事務所や JETRO 事務所の所在を特定している。

A-1-3 REDD プラス実施国における REDD プラス関連の政策・戦略・法規制等を把握している。

- REDD プラス実施国の公式文書や関係者ヒアリング（同国の REDD プラス担当官、JICA 現地事務所等）に基づき、REDD プラスに関連する同国の政策・戦略・法規制等を網羅的に特定している。
- 特定された政策・戦略・法規制等に関する文書を入手し、内容を把握している。
- REDD プラス実施国政府担当者へのヒアリング等に基づき、外国資本参入に関する同国側の意向を把握している（日本企業の支援を仰ぎたい地域、セクター等）。

まとめ

民間事業体の排出削減量がREDDプラス実施国で適切な評価を受けるために・・・

- 正確性と正当性が担保された評価（二重計上の回避、貢献度の評価）
 - － ①JCM-REDD+プロジェクトが開始されたカンボジアを対象として、国の参照レベルを、周辺の立地条件の違いを考慮してプロジェクトに配分する手法を開発
 - － ②当該国でのプロジェクトの組成・実施・拡大のシナリオとフロー想定し、チェックリストを用いて事業を実施（Cookbook Annex Vol.7.）

ご清聴ありがとうございました